

Contents

❖ 会員企業インタビュー	1・2
❖ 活動報告	3
❖ これからの活動(イベント)情報	4
❖ スタッフ紹介	4
❖ 編集後記	4



株式会社アスカネット

会員企業インタビュー

株式会社アスカネットは前身の飛鳥写真館の時代も含めると今年で創業35年目を数え、メモリアルデザインサービス事業(遺影製作事業)、パーソナルパブリッシングサービス事業(写真集製作事業)、エアリアルイメージング事業(光学表示用デバイス製作事業)など写真ビジネスを中心に様々な事業展開を行っています。

他社が取り組まない分野へ積極的に進出し、失敗を恐れず商品開発に挑戦する姿勢には感銘を覚えます。

今回の「つながる」では、株式会社アスカネットの福田会長にこれまでの事業展開や産学連携に対する印象など幅広い内容でインタビューを行ないました。



ーアスカネットがどんな会社か教えてください。

ネットという言葉もまだ知られていない頃からインターネットを使って何かビジネスができないかと考えていました。アスカネットという名称から漁業関係の事業を行っている会社と勘違いされたこともあります。

もともとは写真屋でしたが、あまり写真に囚われるつもりはありませんでした。現在は、遺影写真の加工や配信、写真集の製造や販売、空中結像技術を用いた新商品の開発、販売を行っています。苦労はしましたが、どの事業も軌道に乗せることができました。

ー福田会長はファッションデザインを学ばれ、アパレルメーカーを経営されていたとお聞きしました。写真屋を経営されるようになったきっかけは何ですか。また、前職の経験が役に立つことはありますか。

地元の高校卒業後、大阪にある大学に進学しました。しかし、もともとビジネスをやりたいだったので、途中で退学してしまいました。その後、上京し、ファッションの専門学校に入学しました。当時の日本はだんだん裕福になり、女性を中心に着るものにも拘りがでてきました。また、海外で活躍する日本人デザイナーが輩出し始めていました。そのため、これからはファッションの時代が来ると感じていました。

ファッションのデザインができるということで、卒業と同時に生地屋や縫製屋から出資していただき、アパレルメーカーの社長となりました。当時はベンチャーキャピタルなど無いので、利害関係者がお金を出し合ってブランドを作りました。そのブランドが儲かれば、生地屋や縫製工場など出資した企業も潤うというシナリオがあったわけです。

<裏面に続く>

しかし、オイルショックの影響もあり、新しいものが売れず返品が増えてきたため、すぐにキャッシュフローが回らなくなってしまいました。また、アイデアも底をつき始めましたので、弁護士の提案を受け入れて会社を解散することにしました。そこで、故郷の広島に戻ることにしました。

広島に戻ってからは、趣味のカメラで商売しようと思いつき、写真屋を営むことにしました。もともと好きでしたし、ファッション業界にいたので、結構カメラの勉強をしていました。また、アパレルメーカーのときには在庫に悩まされたので、今度事業を行うときは、絶対に在庫を抱えなくて、安定的に収入があるものしかやらないって決めていました。写真屋は頼まれてから行くので在庫はないですね。

前職の経験というよりも自分の考え方のなにかもしれませんが、自分の知っていることを組み合わせてビジネス化していくということが得意だと思います。よくビジネスの話になった時に、こういう技術があるけど商売になりませんかかって相談を受けます。でもそれって逆だと思います。IoTやAIとか言いますが、それは単なる道具であって、それをどう使ってビジネス化していくかという、いわゆる編集力が重要だと思います。どのようにしたら利益が出るビジネスになるかと考えることが趣味です。もしかして、こうして考えたり、組み合わせるのが、商売そのものよりも好きなのかもしれませんね。

—日本においても産学連携はだいぶ定着してきていると思いますが、福田会長の産学連携に対する印象はいかがですか。

産学連携はずいぶん前から意識していました。最初に始まった頃は何ができるのだろうかと考えたこともあったのですが、やっぱり研究とビジネスの間にはどうしても溝があるので、ここをどうやって埋めたらよいのだろうと感じています。

会社からこうだったら儲かるのに何かいい方法はないですかみたいに投げかけても、それは大学の研究ではないですと回答されたこともあります。企業と大学の間に立つ人、技術に長けたコーディネーターの存在が重要なかもしれませんね。

一方、我々から全くアプローチした訳ではないのに、ある大学は当社の製品を購入し、これをテーマにどんなことができるのだろうと研究しています。だから大学の方から新しいデバイスを探して行ってそれを研究テーマにして、何かを見つけたら我々に持ってくるのですね。共同で特許を申請しようとかね。すべての大学にそれを求めることは難しいと思いますが、大学側の姿勢も変わっていく必要があると思います。

—広島の子生に対してどんな印象をお持ちですか。

ベンチャーという観点からいうと、広島は在学中に起業しようという意思が今一つ足りないと思います。刺激が足りないというか。東京の方では、「同級生が起業して上場を目指しているよ」みたいなことが、割と身近なんですよね。例えば、私が広島の学生に「上場とはこんなものだ」とか「起業したら」みたいな話をしても、あまりにも年代が違いすぎて、「そんな世界があるんだな」という感じです。しかし、東京あたりだと同年代や同級生が上場しているので、「あいつにできるなら俺もやってやろう」という感覚です。身近さが全然地方とは違いますね。

—フェニックス協会のサービスについて、ご意見をお聞かせください。

フェニックス協会のサービスについては、まだそんなに把握していませんが、川瀬先生から当社の社員が受講した「課題発見・解決型研修」はすごく評判が良かったですよ。みんな目から鱗が落ちたって言ってました。

今までは言われたことを言われたようにすればよいという考えの社員が多かったのですが、自分達でものを考え、「こんなことやあんなことをやってみよう」と自発的に行動するようになったと思います。もともと私からも同様なことは言っていましたが、やっぱり全然変わりました。本当に狙いどおりでした。

新しい発想や改善とかの提案が次々出てきます。それもただ単にコストダウンの改善ではなく、新しいやり方など前向きな提案をするようになりました。社員に大きな改善提案能力がみられるところが、我が社の誇れるところです。

広島大学とはいくつか共同研究を実施しています。我が社の事業推進にあたり、連携できる場所は、今後も連携していければと考えています。

—本日は貴重なお話を聴かせて頂き、誠にありがとうございました。

インタビューを終えて

株式会社アスカネットは、遺影配信サービスやアルバム製作サービスなどお客様用にカスタマイズしたサービスを提供しています。カスタマイズするには手間がかかりますが、顧客満足度を高めることによって、より付加価値が高まります。今回のインタビューにより、インターネットの普及が写真ビジネスの可能性を大きく広げたことが理解できました。広島大学フェニックス協会は、引き続き地域企業のために役立つサービス提供に努めて参ります。

(インタビューア：森正樹)



「産学連携学会第16回大会」に参加しました

2018年6月14日～15日に、山口県教育会館、山口県社会福祉会館で開催された「産学連携学会第16回大会」に参加しました。

産学連携学会には、全国の企業、大学、官公庁等から401名の参加があり、103件の一般講演、7件のポスターセッション、6件のオーガナイズドセッションがありました。

広島大学からは下記の2テーマについて、一般講演を行いました。

来場者からは広島大学のベンチャー設立後の支援体制や、研究所設立の経緯についての質問等があり、活発な議論がなされました。

1) 大学発ベンチャー創出支援（広島大学の取組）

○石堂隆太、橋本律男、平見尚隆

大学研究成果をもとにしたベンチャー創出に必要な、教員の起業マインド育成のため、一般のシーズ発表会のような形式ではない、シーズ発掘プログラム『コンパクトブレイブ』を運用した成果報告を行いました。

2) 広島大学「コベルコ建機夢源力共創研究所」コンセプト

（幅広い「課題－成果共創」を実現し、共に成長し、拡がる。「産」と「学」による新しい組織間連携の可能性について。）

○田中精一、湊かおる

広島大学は「民間企業等外部機関の研究所制度」を創設し、新たな価値共創型の共同研究及び人材育成の推進を図ることにより、社会貢献を推進しています。研究所第1号である、コベルコ建機株式会社と設置した「コベルコ建機夢源力（むげんりょく）共創研究所」の仕組み、取り組みについて報告を行いました。

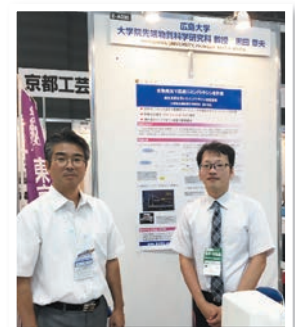


「BIOtech 2018 アカデミックフォーラム」に出展しました

東京ビッグサイトで開催された「BIOtech 2018 アカデミックフォーラム」（2018年6月27日～29日）に、広島大学の研究成果を出展しました。

同フォーラムは、大学や国立研究所が有するバイオ分野の研究成果をポスター展示やプレゼンテーションで紹介し、他の研究機関や事業者との連携（共同研究、技術移転等）を促す目的で開催される“技術交流展示会”です。今年度は、350団体・48,000人（同時開催の関連4展の合計）が来場しました。

広島大学から出展した研究成果は下記の3件で、企業担当者や他の研究機関から多数来場いただき、マッチングに繋ぐための有意義な協議を行いました。



1) 標的 RNA の高精度識別方法

発表者：大学院先端物質科学研究科 岡村好子先生

2) 生物発光による迅速・高感度エンドトキシン測定法

発表者：大学院先端物質科学研究科 黒田章夫先生

3) 光と磁場による麹菌の画期的培養法

発表者：大学院理学研究科 藤原好恒先生



これからの活動(イベント)情報

フェニックス協会の今後の活動予定をお知らせいたします。ご興味をお持ち頂けたイベントにはぜひご参加下さい。

8月

1 広島大学フェニックス協力会 平成30年度総会・特別講演会 (同時開催：広島大学新技術説明会2018 in 広島)

日時 8月23日(木) 13:00~19:00(予定)

場所 リーガロイヤルホテル広島

タイムテーブル

13:00~13:45 フェニックス協力会総会(会員限定)

14:00~15:15 特別講演会

「データサイエンスの現状と可能性」

広島大学情報科学部長・教授 木島 正明

15:30~17:00 広島大学新技術説明会2018 in 広島

①「多角的バイオリファイナリーによる有用脂質生産」

広島大学大学院先端物質科学研究科・教授 秋 庸裕

②「包装食品の未開封・非破壊物性評価」

広島大学大学院生物圏科学研究科・教授 羽倉 義雄

③「麹菌の生長および代謝を変える画期的な培養法」

広島大学大学院理学研究科・准教授 藤原 好恒

④「中温度領域で使用する燃料電池に利用可能な新規プロトン伝導体

広島大学大学院工学研究科・助教 福岡 宏

17:30~19:00 交流会(会費：2,000円)

フェニックス協会についての入会方法および活動情報は <http://kyoryoku.hiroshima-u.ac.jp/> をご参照ください。

■ コーディネーター紹介 no.18



柳 和裕 Kazuhiro Yanagi

担当業務：技術相談、教員紹介、共同研究受入れ、
公的資金応募相談

職歴等：金融機関より出向

ひとこと：

地方金融機関での勤務経験を活かし、地元企業の技術相談から国県市の補助金など外部資金獲得へのサポートなど、スピーディーな対応を心がけますので、お気軽にお問合せください。

TEL：082-424-4306

E-mail：yanagi@hiroshima-u.ac.jp

編集後記

この度の「平成30年7月豪雨」により、広島県内各所では、大規模な土砂災害や浸水被害が発生しました。災害の犠牲となられた皆様に哀悼の意を表しますとともに、行方不明となられた方が一刻も早く見つかりますようお願い申し上げます。さて、皆様の事業所は損傷ございませんでしたでしょうか。現在、被災地域では、災害ボランティアによる土砂の撤去作業が続いています。身近に困っている方がいらっしゃいますので、是非この機会に災害ボランティアにチャレンジしてみようと考えているところです。広島は戦災や多くの災害から復旧してきました。この機会にまた広島の絆がさらに強まることを願います。

本学がお役に立てることは限られているかもしれませんが、可能な限り皆様の必要に応じて参ります。お手伝いできそうなことがございましたら、遠慮なくお申しつけください。

広島大学は、引き続き地域に根差した大学を目指して参りますので、よろしく願いいたします。

(M.M)

発行：フェニックス協会事務局(広島大学 社会連携グループ内)

〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号 TEL：082-424-5871/FAX：082-424-6189/E-mail：syakai-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

お問い合わせ先：広島大学 産学・地域連携センター 産学連携部門

〒739-8511 東広島市鏡山一丁目3番2号 TEL：082-424-4302/E-mail：techrd@hiroshima-u.ac.jp